

宮沢地区公民館だより



令和6年2月1日
発行：宮沢地区公民館
電話・FAX22-0433

宮沢地区新春作品展

■日時 2月23日(金)～2月25日(日)
午前9時～午後5時
(25日(日)午後3時で終了)

■場所 宮沢地区公民館

■作品 児童の絵画・書道、手芸、木工品
しめ縄、パッチワーク、写真、民具
人形、花、エコクラフト、その他

◆特別展 宮沢地区著作物、古文書
宮沢の動画(DVDの上映)

新春作品展 作品募集!

新春作品展に地域の皆さんの手作りの作品を募集中です。絵画・写真・手芸・・・。手作り作品なら小さなものから大きなものまで何でもOKです。

作品募集(提出)期間

2月7日(水)～2月14日(水)
午前9時～午後5時

作品返却について

2月25日(日)午後3時以降に
公民館に取りにお願いします。

出版書籍・古文書の特別展

宮沢作品展の開催期間中に実施します。

■古文書の特別展説明会

2月24日(土)午後1:30～2:15
佐藤良彦氏(市文化財保護審議会会長)

- ・柴崎与左衛門文書(写)市指定文化財
- ・佐藤村右エ門文書・明光寺盛衰記 など

■出版書籍展示の一例

- ・宮沢中学校30・50年誌
- ・明德小学校百年誌・高橋小学校百周年誌
- ・倉金正蔵日記・ヒメギフ蝶 ほか

○※本をお持ちの方は、お貸し下さい。

主催：宮沢地区歴史保存会 共催：宮沢地区公民館



ベルマーク 10,000 運動

【主催：宮沢小学校の児童】

社会貢献活動として、児童が考えて、ベルマーク集めを取組中です。ベルマークを集めると募金することもでき、イス、机などを買うこともできます。

地域の皆様、是非、ご協力をお願いします。

- ・目標金額 10,000円
- ・期間 2024年1月4日～2025年1月24日

宮沢地区公民館・宮沢小学校・近所の児童までお持ちください。

ベルマークはこんな商品に →

1/18 宮沢小のアドバイザー会議で、地域の皆さんに協力依頼を確認しました。



野球しようぜ、宮沢小学校の児童 大谷選手からグローブ届く

(手紙の全文)

貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介するためのものです。この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。 大谷 翔平



(小学校の昇降口に置いてある)

降る雪の量を予測

山形県の雪情報システムで雪害の予防

雪に関するこまめな情報収集が大切で、雪害の予防にシステムを活用ください。

安全に冬期間を過ごすためには、雪に関するこまめな情報収集が重要です。「山形県雪情報システム」や「こちら防災やまがた!」では、冬期間の生活に役立つ情報を随時発信しておりますので、ぜひ活用ください。

山形県雪情報システム

<http://homerun.wni.co.jp/snow/docs/>

県内の降雪量予測情報 気象庁発表情報 など

こちら防災やまがた!

<http://www.pref.yamagata.jp/bosai/>

雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報 安全な除排雪の実践方法 など

※ 尾花沢の観測地点は、消防署の敷地内のアメダス。

・3時間ごとの予測が表示される。 ・降雪量は、前3時間に降る量を表している。

お知らせ

宮沢宝来吹矢隊「吹矢、ほらを吹いて健康」

吹矢練習会

・毎週火曜日 13時30分～15時30分
2/6、13、27 場所：宮沢地区公民館

大崎市宮沢と交流

2月25日(日)雪まつり(徳良湖)児童約20名

能登半島地震の義援金の受付

皆様からのあたたかいご支援をお願いいたします。

受付 令和6年1月9日(火)～12月27日(金)

場所 尾花沢市役所・各地区公民館

お寄せいただいた義援金は日本赤十字社山形県支部を通して被災地へ届けます。

パッチワーク教室「キルトに想いを込めて」

毎週木曜日 9時～15時

2/1、8、15

場所：宮沢地区公民館



宮沢地区の人口と世帯

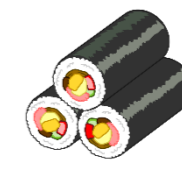
(1/1現在)(前月比)

男 786人 (-1)

女 766人 (-3)

計 1552人 (-4)

世帯数 581世帯 (-1)



2024 テーマ「知恵を出し合い縮充へ」

（説明）「縮充」とは、人口は減っても充実したまちづくりを目指そうという考えです。

手を加えれば、温もりのある地域ができる。1/10 代表区長会議で決定しました。

今後を展望する要望で意見交換 【2024 年 宮沢地区新春を語る会】



花笠の湯を会場に1/16（火）区長と振興連絡協議会の役員ら31名の出席で開催された。はじめに、能登半島地震で犠牲になった方に黙祷。石山会長（区長）のあいさつで、「元旦に、マグニチュード7.6の能登半島地震が発生した。いつ災害が発生するかわからない、常日頃からの備えや訓練が非常に大切になってくる。今年度は、『知恵を出し合い縮充へ』を目標に、活力ある宮沢づくりに努めて参りたい」とあった。

結城市長から、「市民が主役のまちづくり」について講話をいただき、その後、防災情報として山形盆地断層帯と雪情報システムを公民館長が説明した。参加者は色々な情報を共有し、今後も住み続けられるまちづくりを目指して知恵を出し合い活動することを確認した。

地域の意見や質問を7項目に集約して意見交換し市長に代わって中央公民館長から回答の説明があった。

1. 4月から月2回の市報発行をしていただきたい。

市報の役割は、①リアルタイムな情報 ②身近な話題（政策）③高齢者の見守り ④集落や市、各団体の事業への参加呼びかけ等と考える。近隣市町村は、月2回発行し1回のところは見当たらない。

また、市民の意見を反映するため、モニター制度を。

（回答）

スマートフォンなど情報発信が多様化してきた。地区の配布の負担が課題だった。必要な人に必要な情報を届ける情報発信のあり方を考える必要があった。紙面のリニューアルによりデジタル化に向けた取り組みと紙の削減を図る。今後、モニター制度の導入を研究し、親しまれる広報誌を目指す。



2. 移動市役所がスタートしましたが、どのような内容。

また、マイナンバーカードを活用したタクシー券は、今回は実証実験。今後どうなるの。

（回答）

移動市役所でマイナンバーカードを活用したタクシー券の受付は、12月時点で約260名、10日間運行。来年度以降、マイナンバーカードに自動的にタクシー券情報が付与されるので利便性が高い。今後デジタル技術を使いこなせない方へのサポートは、スマホ教室による支援を考えている。

3. (公約にあった) 地域づくり組合について、現在どのように進んでいますか。雇用確保で期待している。

（回答）

現在、先進自治体から情報収集など準備作業を進めている。

4. 学校跡地の利活用計画について、令和6年度に仮称「庁内検討委員会の設置」、令和7年度に地区代表や各団体からなる「空き校舎利活用まちづくり委員会」を設置する等具体的に進めていただきたい。

昨年11月に、宮沢地区区長会などで遊佐町役場に行き、研修してきた。

（回答）庁内の検討委員会で利活用や管理方法を検討している。大切なのは、地域や市内企業等の考えを聞き、その思いを尊重すること。先進事例を研究して利活用が図られるように取り組みたい。

5. 徳良湖周辺の整備スケジュール、特にグランドゴルフ場、パークゴルフ場の整備の進捗状況

（回答）

マスタープランにより整備し今の工事完了後に、グランドゴルフ場とパークゴルフ場の整備を予定。

6. 一人暮らしで経済的に困窮し、身寄りが少ない高齢者に対して、終活支援事業（エンディングノート作成、死亡届出、葬儀、納骨先など心配事）の検討。

（回答）

現在、高齢者等の相談に寄り添い対応している。他市では、社会福祉協議会や民間事業者と協議しているところがあるので、今後、調査・研究したい。

7. 要援護者を対象に、防災ラジオを配布しては。

（回答）重要な防災グッズ。コミュニティFM、自局の放送局を持っていることが条件で長井市では防災ラジオを無償貸与している。今後、研究していく。

宮沢と満州（9）満人に我が子を預けて地獄の逃避行

令和4年の本紙『宮沢地区公民館だより』に倉兼政芳さん(令和5年時101歳でお元気、丹生)がシベリヤ抑留中の過酷な体験を詠んだ短歌を森山洋さんの土曜学校の教材として掲載していた。その中で昭和22年、倉兼さんがようやく日本へ帰国する事となりナホトカ収容所に居た。その折、山形県宮沢村富山「佐藤武」の名前と出会ってびっくり。異国で同郷の人に逢うくらい嬉しいことはない、と倉兼さんは語っている。二人は懐かしく話を交わした。佐藤さんは倉兼さんより15歳年長で、昭和10年頃大陸での飛雄を夢みて開拓団として渡満したと言う。終戦間際、軍に召集されてソ連軍の捕虜になった。捕虜も帰国間近になると故郷と連絡が取れるようになり、佐藤さんは妻の帰国を知ったが、幼い女兒を満人にあずけざるをえなかった事を知り大変悲しんでいたと言う。そうした残留孤児の悲劇が宮沢にもあった事を私は初めて知り、詳しく知りたいと思い同じ関谷の佐藤良彦さんに紹介してもらい、佐藤武さんの娘の春美さん(昭和25年生れ同41年宮沢中卒、現奥富姓で川口市在住)に手紙を出し、彼女からの手紙と電話での話が以下の内容です。(当然春美さんの話も両親から聞いた話です。)

母(正厳高橋家)とは写真見合いをし、単独満州に渡った大陸花嫁だったようです。子供4人に恵まれ(長男と3人の女子)、耕作地も多くお金も貯り平和に暮らしていた。だが昭和20年8月突然不幸が襲った。父はソ連軍の捕虜になってシベリヤへ連行。母一人で4人の幼児を連れての地獄の逃避行は到底無理と知り、農場に働きに来ていた満人夫婦が女兒を欲しいと懇願されて(中国では女兒の出産が少なかった)泣き泣き3人を預けた。生き別れは親と子にとってどんなに辛かったことか、話を聞くだけで涙が出てくる。長男を連れ何とか引き揚げ船に乗ったが到着した長崎港で、今度は長男がはしかで病死したと言う。

どうにか母は関谷の父の実家に辿り着いた。そして昭和22年に待ちに待った父の武さんがシベリヤから帰国した。しかしお金も耕作する土地もなく苦難の生活を余儀なくされた。粗末な家を建て、父は農家の手伝い(日雇い)で糊口をしのいだと言う。そして兄と春美さんが誕生したが母は苦勞がたたったのか春美さんが4歳のときに死亡。2歳上の兄と私や弟を育てるため父は後妻を貰った。父は愉快な人で尺八もやり集落の人の唄の伴奏もしていた。翁山の中腹に我家の畑があり父と一緒に働きに行くのが楽しかった。しかしその父も中学2年のとき亡くなった、と春美さんは悲しく話す。その後の苦勞は想像がつく。母の弟の正厳の高橋床屋さんや母方祖母の実家の元村長の井上さんご夫妻、親戚ではないが関谷の柴崎さん黒坂さんからは大変親切にしてもらった。今でも感謝している。春美さんと語る。

成人した春美さんは厚生省に電話し、武さんのシベリヤ抑留補償金や中国に残してきた姉たちの消息を問い合わせたが姉たちはすでに死亡した事になっていて手掛かりは得られなかったと言う。補償金も該当しなかった。宮沢にも先の戦争で春美さん一家のように国策に翻弄され、悲惨な人生をおくった犠牲者が多くいたのである。



奥富(旧姓佐藤)春美さん



地獄の逃避行、NHKテレビ「どこにもない国」より



満州開拓団もソ連軍侵攻までは親子共に平和でなごやかに暮らしていた。

文責 宮沢地区歴史保存会 三浦幹雄